

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4570102436
法人名	医療法人社団 こおり産婦人科・内科
事業所名	グループホーム101
所在地	宮崎市清水1-169 (電 話) 0985-28-8114

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成19年6月14日

【情報提供票より】(19年 6月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 6月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 4 人, 兼務1人 非常勤 3人, 常勤換算 7.37人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,800 円	その他の経費(月額)	特室のみ9,450 円
敷 金	有(円)	☒ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ☒ 無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	315 円	昼食 473 円
	夕食	473 円	おやつ 込み 円
	または1日当たり 1261 円		

(4)利用者の概要(6月 4日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 88 歳	最低 82 歳	最高 96 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	こおり産婦人科・内科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

町の中心部の閑静な住宅地に位置し、民家を思わせる平屋作りのホームである。リビングは、天井に窓が設けてあり自然の風や採光が入り、観葉植物が置かれ、また畳コーナーもあり居心地良い空間となっている。利用者の身だしなみは整っていて、職員のさりげない支援が伺える。また、利用者の意見を聞き、できるだけ意向にそうように外出支援もされている。母体法人である病院から定期的な回診が行われており、緊急時の受け入れも整っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題について管理者は職員と話し合い、改善に向けて取り組んでいる。苦情相談窓口の紹介と記載、金銭出納帳の管理と家族への報告など改善されている。鍵をかける取り組みをすすめているが、門扉の改善までは至っていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価及び外部評価の意義を理解し、自己評価について全員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の必要性は、理解しているが、開催までは至っていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を設置し、意見をもらえるように工夫している。出された意見については、職員全員で話し合い、改善策をご家族に伝え納得を得られるよう取り組んでいる。家族会を作っているが開催は、不定期である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設当初は、地域の保育園のクリスマス会に招待されたり、中学生のボランティアを受け入れる等の交流があったが、最近は、交流が継続できていない。今後地域活動の参加・交流を進めることを課題としている。

2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は 母体である法人の現在地が101番地であることから、100歳からの再出発とし、100歳から益々元気に安心して安全に過ごせるように質の良いサービスを提供する。また、利用者も隣近所や地域の皆さんとも仲良くしたいとの思いで理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は毎日のミーティングの中で理念に沿ったケアを提供できるように職員と話し合いを持っている。職員も理念を共有しサービスに反映させようと努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設当初は地域の保育園のクリスマス会や中学生のボランティアを受け入れるなど地域との交流を行っていたが最近地域との交流が継続できていない。	○	地区の自治会の加入や民生委員の方等と連絡を取り合ったり、ホームが地域と馴染みの関係が保てるように再度地域との交流をすすめてほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の自己評価・外部評価を受けて、指摘のあった改善点については管理者・職員で話し合い改善できる箇所から取り組まれている。鍵をかけない取り組みを行い、玄関はかけていない。	○	門扉についても、錠をかけない工夫に取り組んでほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者は運営推進会議の必要性は理解しているがまだ取り組めていない。	○	利用者、家族、地域住民代表者、市町村職員又は地域包括支援センターの職員、地域密着型サービスの支援者など働きかけて運営推進会議を開催してほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者との連携は行えていない。	○	事業所の実情や地域密着型サービスとしての取り組み方など折に触れて伝えてほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者のホームでの生活の様子は写真でリビングに掲示したり、電話で伝えたり、面会時に担当の職員が話すようにしている。金銭の管理は個別に出納管理がされ家族の面会時内容説明しサインを頂いている。ホーム便りは年2回発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を投函しやすい場所に設置し、意見を貰える様に工夫している。苦情等を貰った場合は職員全員で話し合い、改善策を家族に伝え納得していただいている。重要事項説明書に苦情受付機関として国保連合会の苦情窓口があることを追加掲示されている。家族会については行っているが不定期である。	○	家族会を定例化して、さらに家族等の意見が反映できるように取り組んでほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニットの職員は固定化されているが離職の場合は入居者の笑顔を損ねることのないように他の職員でカバーするように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受講し、資料等でミーティングや会議のなかで伝えている。職員はサービスを向上させていくためにも法人外の研修を受講したい意欲をもっている。	○	研修会に参加したら研修報告書にまとめ、職員全員で共有をはかるようにしてほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会は持っており必要時は電話で相談・連絡等している。勉強会などは行えていない。	○	相互訪問等の学習活動を計画され互いのサービスの質の向上に活かしてほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	現在までの入居者は入所初日からサービスを開始している。	○	地域密着型の特長を生かして本人が職員や他の利用者、サービスの場に馴染み、安心して納得しながらサービスを利用できるように段階的な支援を検討してほしい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしなが喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという職員の認識の下に一方的に押し付けるケアをしないように心がけ、支えあう関係を築くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者からの希望があるときはドライブに出かけたり、外食を計画して職員と会食したり、できるだけ利用者の意向に沿うように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意見を取り入れ職員全員の意見交換やモニタリングを行い本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとにアセスメントを行い、利用者・家族の意見もとり入れて計画を立てるようにしている。関係者が集まってケアカンファレンスを実施し、現状に即した計画を作成している。状態に変化があるときはその都度見直しを行いプランの変更を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診時の付き添いや、レクリエーション・ホームセンターやデパート・スーパーなど入居者の希望に沿うことが出来るように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を大切にし、精神科・皮膚科受診や希望があればかかりつけ医に湿布を貰いに行くなど支援している。また法人からの回診も定期的(1回/1か月)にあり、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	経営者は管理者・スタッフ会議において入居者の重度化した場合、もしくは終末期の対応についての方針を示唆している。家族に対しては必要な時期に話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は一人ひとりのプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないように配慮している。記録物についても注意を払い面会簿等の取り扱いも検討している。(個人名が第三者の目にふれるため、業務日誌に職員が記載する方法に変更する)。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	帰宅願望の入居者が門から外へ徘徊される時など本人が納得されるまで一緒に付き添うなど個人のペースに応じた支援がされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや食形態について把握している。嚥下状態に応じてはぐしたりミキサーにかけている。咀嚼・嚥下の悪い利用者には付き添いさりげなく介助している。食事の準備や片付けは一部の方に限られ簡単な作業をお願いしている。職員は利用者と同じテーブルで食事をしている(手持ちの弁当)。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は5日／週 の午前中に行っているが希望があればいつでも入浴支援は可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	折り紙の好きな方には折り紙をしていただき作品はリビングの壁に飾られている。生け花の好きな方にはお花を生けていただくなど支援している。書道がしたいと希望があるも職員が書道が苦手で取り組めていない。	○	利用者の得意分野を引き出して楽しみごとや気晴らしの支援を数多く取組んほしい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を聞いてドライブや外食・近くの温泉など戸外に出かける支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関や居室の鍵はかかっている。庭に出る際は自由に入出入りできるが、門扉は施錠されている。	○	鍵をかけないケアの実践についてさらに取り組んでほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練の実績はあるが計画的に定期的に実施されていない。災害時の食料・飲料水などの備蓄がない。	○	防災訓練や非難誘導の方法(地区の防災避難先の確認)など計画を立て、定期的に実施してほしい。食料や飲料水などの備蓄について検討してほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が立てた献立表に沿って見た目にも色合いよく食欲をそそる調理をされている。一日必要な水分の量も個人の記録表に明示されている。食事の摂取状況を毎食職員が記録している。		献立について、入居者と一緒に立てる工夫を検討してほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りは季節の花や植え込みが家庭的な印象を与える。廊下の壁・トイレ・浴室には要所に手すりが施されて安全面の配慮がされている。リビングにはソファやテレビ置のコーナーもあり天井窓から自然の風や採光が取り入れられ居心地良い空間となっている。台所から煮炊きの匂いが漂い家庭的な環境のなかで利用者は円卓に腰掛けてくつろいでおられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所当初からご家族に説明して本人の使い慣れた馴染みの物を持ち込まれている。観葉植物や好みの置物などで利用者が居心地よく過ごせるように配慮されている。		